

うま獣医のよもやま話 ⑮ 柴田 良 獣医師

駆虫薬と駆虫方法について



浦河診療所
柴田 良

平成20年より
浦河診療所勤務

近年、寄生虫の駆虫薬に対する抵抗性が問題となっています。分かりやすくいえば、特定の駆虫薬の効かない寄生虫が増えてきているということです。特に駆虫薬に対して抵抗性を持った回虫(写真1)が増えてきています。同じ種類の駆虫薬を使い続けているということが、寄生虫の駆虫薬に対する抵抗性獲得の大きな原因の1つです。多くの牧場で実際行われている回虫の駆虫方法は、イベルメクチン製剤(商品名:エクイバラン、エクイバランゴルド、Equi-maxなど)



のみ1種類を4~8週間
間隔であげるという
やり方です。この方
法を長年行ってきた

結果、イベルメクチンに抵抗性をもった回虫(イベルメクチンで駆虫できない回虫)が増えてきているのです。またイベルメクチンだけでなくピランテル

(商品名:ソルビーシロップなど)

に抵抗性のある回虫もいるようです。このよ

(写真1)



うな回虫が存在するせいで、しっかりと駆虫しているにもかかわらず寄生虫が原因の疝痛で最悪の場合には死を招くこともあります。実際今年もイベルメクチンやピランテルで4週間隔で駆虫していたにもかかわらず回虫による疝痛で死亡した仔馬の話も聞いています。

以上のことから、より効果的な駆虫方法や抵抗性を作り出さないような駆虫方法の見直しが必要です。抵抗性を持った回虫を駆虫するためにも、抵抗性を持った回虫を作り出さないためにも重要なことは、複数の駆虫薬で定期的に駆虫を行うということです。イベルメクチンやピランテルで回虫が十分に駆虫されない場合はフェンベンダゾール(商品名:※Safe-guardなど)という駆虫薬の使用も考え

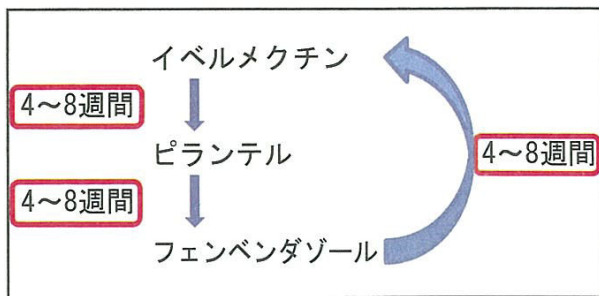


なければ
なりません。有効
な駆虫薬
で間隔を

空けすぎないように用量を守って駆虫を行うことが大切です。下にひとつの駆虫プログラムの例を示します(表1)。

この機会に皆様も駆虫薬と駆虫プログラムの見直しをされてみてはいかがでしょうか? かかりつけの獣医師と相談しながら(虫卵検査をしてもらうのも良いでしょう)より良い駆虫プログラムを検討してみてください。

※ safe-guardは現在HBAで取り扱っておりませんが、日本製で代替薬がありそちらは取り扱っております。



駆虫方法の1例

